

お薬の 使いかた

子どもの生活の中で、風邪薬、下痢止め、坐薬（ざやく）などのお薬は、どうしても縁がきれません。

そして、子どものことですから、なかなか飲んでくれなかったり、うまく坐薬を入れられなかったりしがちです。

ここでは、上手なお薬の飲ませかた、坐薬の使いかたをお話しします。



お薬の保管

坐薬：「冷所保存」と指示されたものは、冷蔵庫で。1年ほどを目安に、新しいものに交換してください。

頓服（とんぷく）：6か月程度をめぐりに、保管しておいて結構です。

水ぐすり：混合してあると、長持ちしません。その場で使いきってください。

粉薬：水ぐすりより安定していますが、混合してあると、長持ちしない場合もあります。

とくに粉の薬は湿気に弱いので、密閉できる容器に、乾燥剤といっしょに保管してください。

また、とくに夏場は自動車の中に置いたままにしておくと高温になって、お薬をダメにすることもあります。持ち運ぶ時にも注意をして下さい。



薬の飲ませかた

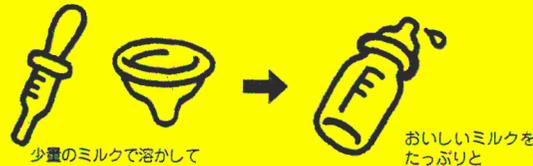
坐薬の使いかた

乳
児

水ぐすりはそのまま、粉ぐすりは少量の湯ざましで、だんご状にして上あごにごすりつけ、その後、水、湯ざまし、ミルクなどを与えます。溶かすときはひとくちで飲める量にします。



1回分のミルクにまぜると、全部飲まなかったりミルクぎらいになりますので、少量のミルクに溶かしてぐすりを与え、それからおいしいミルクを与えます。



水ぐすりも粉ぐすりもなるべく他のものに溶かさないうで、そのまま与える習慣をつけましょう。あとが薬になりますよ。ぐすりを嫌がる時には、本人が納得すれば何に混ぜてもかまいません。

- ☆牛乳、ヨーグルト、アイスクリームなどの乳製品に混ぜると苦味がやわらぎます。
- ☆スポーツドリンクやジュースに混ぜると、かえって苦味が強くなることがあります。
- ☆粉ぐすりを水に溶かし凍らせて与えてもよいでしょう。



ぐすりのシャーベット



「1日3回」は、いつ飲ませるのか？

食事にとわかれず、起きている時間を三等分、を目安にしてください。

たとえば

朝8時ごろ
昼2時ごろ
夜8時ごろ

 など。



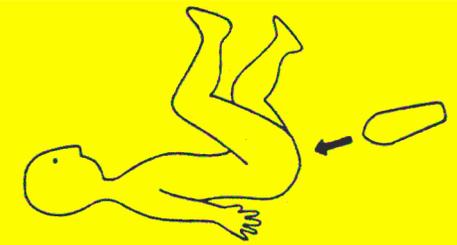
食前それとも食後？

食後は満腹で飲まなかったり、食べたものとっしょに吐いてしまうこともあるので、授乳直前や食前に飲ませるようにして下さい。

幼
児

〔坐薬の入れ方〕

お子さまは、図のような姿勢をとらせ、坐薬の太い方から（矢印の方向）肛門内に深く挿入してください。



坐薬（ざやく）も子どものお薬としてよく使います。

熱さましのほかに、喘息の薬、抗生剤、けいれんの予防薬、排便促進剤などもあります。

赤ちゃんはオムツかえの姿勢に、すこし大きい子は横向きにして、肛門に、坐薬のとがったほうから一気にさしこみます。すっと入る感じを確かめたら、指で肛門をそのまま押すようにしておくと、坐薬が戻ってきません。

入りにくいようでしたら、坐薬にオリーブ油、ワセリン、水などをつけて、滑りをよくしてみてください。

また、肛門がぴんと張っていた方が、入りやすいです。試してみてください。